

ネパールで棒灸体験キャンプ & MAYA 棒灸製造

～イコールパートナーを目指して～

〔カトマンズ：2020年2月15日-2月20日〕

Experience camp in Nepal: Stick moxibustion and Maya moxa stick making
Aiming for a equal partnership



まや鍼灸院 こまざわ 駒澤 愛先生 | KOMAZAWA Ai

「私は、2020年2月にネパールの首都、カトマンズで日本の鍼灸を体験してもらうための4日間のキャンプ、さらに現地で非営利団体と協力し、職業訓練指導としてMAYA棒灸製造のトレーニングを行ってきました。いずれも、今後、本格的に医療として、また経済活動としての意味も含めて継続して実施していくことを目指したパイロット的なものです。」

駒澤愛先生とネパールとのつながりは、2016年にルンビニで畠美奈栄先生主催のヘルスキャンプ、翌2017年秋にトゥルシープールでの鍼灸ボランティア、さらに2018年には施術に必要な棒灸（MAYA棒灸）の現地製造が実現可能かど



駒澤 愛先生

うかのリサーチ
地…というよう
に、数年をかけ
て現地の方々と
関係を築きなが
ら今に至ってい
る。

「最初は、畠
先生がネパール
でのような世
界に鍼灸師と
して身をおいてい
る。

らっしゃるのかを知りたいと思って参加しました。翌年の鍼灸ボランティアは、高校時代の数学の恩師とのご縁から現地の小児科医を紹介していました。その地域で初めて鍼灸ボランティアを行うことになりました。その先生は20数年前からネパールに算数ボランティアに行かれていて、私たち生徒からは『ネバ先生』と呼ばれていたほどでした。ネバ先生は、JICAでのボランティア活動終了後も高校の休みを利用して継続して現地の学校で算数を教えておられ、その学校の校長先生の息子さんが奇遇にも小児科医だったのです。」

病気やケガを単に治すだけにしない ～イコールパートナーとして～

これらの経験から、ボランティアでの「してあげる人」と「してもらう人」という関係が、現地の方々にこちらが意図しない依存を生じさせてしまう可能性を感じ、今回のカトマンズでのキャンプは無償ボランティアではなく、治療費をいただく有料治療を試みることになった。

「何でも無料でやってもらえるという関係を私は望みません。現地人同士ならまだしも、海外からボランティアで行くのは、災害時などは別として、どうなのかな…と。特に鍼灸に関し

て言うと、その人が持っている症状やケガは、生活の結果、あるいは何らかの原因があって生じたものです。『人生は1冊の問題集だ』という日蓮和尚の言葉があるのですが、病気やケガも自分の人生をそこから振り返る、見つめ直すチャンスやきっかけになります。安いボランティアはそのチャンスを奪ってしまう可能性があるように思います。」

ネパールでは30歳を越えたあたりから急激に太っていく女性が多くみられ、そのせいもあって膝痛や腰痛など関節を痛めている方や、糖尿病も多い。これは食生活と運動不足の結果と思われ、そこへいくら鍼灸をしても焼け石に水で、一時的に楽にはなってもすぐに元に戻ってしまう。

「ネパールにはここ3、40年で、海外援助がたくさん入っていますが、それが自立を阻害することも無きにしも非ずという声も聞かれます。私が見ていると、ネパールの人たちは自分たちの力で国を発展させられるし、能力もあります。確かに、多民族国家で階級もあったりしますが、その中でネパールという1つの国を建設して行くという意識で活動している方々もたくさんいます。病気も本当に治したければネパールの方もお金を払います。そのことで自分で治そうという気持ちも起こると思います。治療して代金をいただき、また私の施術で必要な棒灸を作ってもらって、その代価としてお金を支払う。ネパールの方々とイコールパートナーでありたいと思っています。」

ところで、MAYA 棒灸の MAYA はネパール語で「愛する」「愛しい」を意味する言葉という。

「私の名前が愛ですので、初めて訪れた時から現地の皆さんに“Maya（まや）”と呼ばれています。私のネパリネームであることもありますが、それ以上にお灸で世界中に愛を届けよう、

という気持ちを込めて名付けました。」

ネパールで動き出した鍼・棒灸治療

「今回のキャンプでの治療は友人やそのご家族でお困りの方に限定しました（写真1、2）。患者さん達は『自分の体は自分で活かすもの』というこちらの考え方をよく理解していただき、その考え方の上で施術を受けていただきました。実際に施術以外に食事指導や簡単な筋肉トレーニング、ストレッチなどのアドバイスも行いま



写真1 カトマンズでの鍼灸キャンプで現地の男性への鍼治療



写真2 鍼灸キャンプでの棒灸治療

した。

時間も1人1時間程度と、お話を伺い丁寧に説明をし、全身的な施術をするという日本と変わらないスタイルで行いました。人数をこなすことではなく、本来の鍼灸施術を体験していただきたかったことと、私たち施術者側もその結果や変化を知りたかったからです。棒灸施術はここでもとても好評でした。鍼に不安のある方や怖い方のほか、交感神経が優位な方には本当に有効で、気持ちが良い上にきちんと身体の変化・心の変化が表れていました。」

4日間のうち1日施術者として参加した小倉清子さんはもともとジャーナリストで、20年以上ネパールに住み、政治情勢を扱った著書を上梓されている。数年前に一念発起して日本で鍼灸師の免許を取得され、この1月にカトマンズ近郊でご自身のクリニックをオープンされたといふ。

「小倉さんは年齢は上で鍼灸学校も違いますが、鍼灸師免許の取得が同期なんです。鍼灸クリニックをオープンされたので、患者さんたちはキャンプ終了後も小倉さんのクリニックに通って継続して鍼灸治療を受けていただくこともできます。小倉さんは今回、MAYA 棒灸テ

クニックも学んでくださいました。早速、大変好評で、良いものを教えてもらって感謝している、とまでおっしゃってくださいました。」

ボランティアではわからない、 MAYA 棒灸製造から見えてきた事

もう1つの目的のMAYA 棒灸製造のパートナーもネパールのためにあらゆる面でがんばっているネパール人による現地NPO（非営利団体）である。

「始める前は女性の自立のための仕事を、と思っていました、しかしざ蓋を開けてみると、メディカルカレッジの学生（男女）、カトマンズの学校の校長先生ご夫妻、同じく近郊の村で農業などを行っているやや高齢の男性など、本当に様々な年齢層、性別の皆さんのが参加してくれました。彼らには棒灸製造の理念を記したものを手渡しし説明することからスタートしました。対価を支払うことだけでなく、自分たちが作ったものがどういう風に世の中の役に立つか、その喜びを理解したうえで作ってもらうことは私たちにとって欠かせない大切なことでした。

作業は、大きなネパール紙をカットするとい



写真3 MAYA 棒灸の製造
①：決められた寸法にネパール紙等カットしていく。



写真4 MAYA 棒灸の製造②：規定量のもぐさを同じ圧で詰めていく。



写真5 完成した MAYA 棒灸。3kgのもぐさから100本以上ができた。

う一番最初の工程から始めました(写真3、4)。商品として少しでも良いものになるよう、かなり細かい指示で、シビアな指導だったと思いません。初日はどうなるか…という感じでしたが、皆さんはそれをよく理解して、2日目以降はとても順調に進み、まさにLove & Pesce & laugh! 温かく安らぎと笑顔に満ちた空間で棒灸が製造されていくことに感謝の気持ちがいっぱいになって涙もこぼれました。施術にも大きなエネルギーになってくれると思います。」

ところで、棒灸に詰めるもぐさは現地で調達されたもので、今回は3kg弱。それが100本強の棒灸になった(写真5)。まだまだ未熟な点はあるものの、製品としてまずは出来となつた。なにより「また作りたい、参加したい。次はいつ?」という声が上がったことは、彼らの職場として合格をもらえたことを意味し、さらに「素晴らしい経験ができたことだけで十分なので、製造した対価(賃金)は要らない。あなた達のカンパニーのために使ってほしい。」という声には、駒澤先生たちスタッフは感動と感謝でいっぱいになつたといいます。

「これは単にボランティアをしているだけではわからなかつたことです。」



写真6 ヨモギの薬効のレクチャーに集まってくれた子供たち



写真7 ヨモギの薬効についてのレクチャーで棒灸を体験してもらう。皆、興味津々。

ヨモギ「titepati (ティテパティ)」の薬効のレクチャーから

ヨモギはネパール語で「titepati (ティテパティ)」と言う。今回は、キャンプ期間中2回ほど、もぐさの元になるヨモギそのものの薬効についてのレクチャーを行つた。ネパールで鍼灸はまだまだ認知度は低いが、アーユルベーダの大学などがあり、代替療法を受け入れる素地はある。

「1回目は大人を対象にし、20名ほどが参加してくれました。目を輝かせて『私、titepatiが大好きになったわ!』と言ってくださる方、『村に帰って皆に話します』という方など上々の反応でした。2回目はカトマンズの小さな学校で、中学生くらいの子供たちが参加してくれて、少し難しい内容も校長先生や友人たちの手助けで理解してくれて大盛り上がりで終わることができました(写真6、7)。今後もこのレクチャーも続けて、ネパールでも身近にある草であるのヨモギの素晴らしい効果を知つてもらい、活かしてもらえたらいふ思います。」

ネパールでも病院に行くと強い薬を処方され、それが治療だと思われていることが多いといふ。

「それだけではない選択肢のあることを知つてもらうことと、さらに未病治の考え方、つまり予防医学として体・心・魂の調和によって、その人が生まれてきた使命を全うできるような良い循環ができるることを願つています。そのためにも、日本と同じように、現地でもMAYA 棒灸のワークショップを行つて施術者を増やしていくけたらと願つています。このテクニッ

クは宗教的に服を脱げない方にも施術できますし、寝たきりや麻痺の方へのケアもできます。ネパールにはまだまだリハビリテーションが普及していなくて麻痺の方が多いのです。」

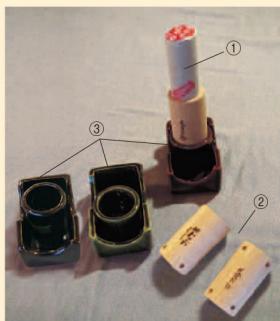
*

「振り返れば、ここまで行くまでの折々に多くの方々と出会い、助力をいただきました。今回のネパールキャンプもそうでした。そういう

ことを若い人たちに言うと『神社組みだ』だねって言われました(笑)。実際に、何か見えない力でご縁が繋がっているなと思います。どこまで行けるかわかりませんが、私も精一杯進み、ネパールの皆さん、次の世代の皆さんにバトンタッチできたらと思います。ご支援のほどよろしくお願いします。」

これからが楽しみである。

まや温灸院で販売しているオリジナルグッズ



① MAYA 棒灸

ネパール & 東京（日本）製

直径30mm、約14cm

1200円（本体価格）

② 棒灸グリップ

木製（北々工房製・岐阜飛騨）

シングル（片方）ホール 2300円（本体価格）

ダブル（両方）ホール 2500円（本体価格）

③ 棒灸トレイ・棒灸消し（3色あり）

陶器製（藤山窯・岐阜土岐市）

棒灸トレイ 2500円（本体価格）

棒灸消し 1200円（本体価格）

*お問い合わせは、shop まや舗 MAYAHO まで。

Web サイト <http://www.tetote.rocks>

☎090-8875-0944又は email : 88.mayaho@gmail.com ^。